

I 宇多津町住民会議2011の実施内容

1 会議の位置づけ

これまで自治体における住民参加は、審議会方式であれ全員公募の住民会議方式であれ、参加の機会や仕事や家庭等の問題をクリアして時間を捻出できるなどの参加条件を備えた住民の参加であったといえる。これまで実施してきた住民の参加や協働の取り組みに加えて、宇多津町の住民の幅広い意見を取り入れ協働のまちづくりの更なる拡大を図る新たな参加手法を模索する。

2 会議の目的

- (1) 住民自治による協働のまちづくりのための話し合いの実現を主眼におき、これまで参加の機会がなかった住民が話し合いの場に参加し、意見を出せる機会を創出する。異なる立場の住民の意見を聞きながら、出席者同士意見を出して課題発見、解決方法及び新たな提案などを行う。
- (2) 話し合いで出された意見等を、行政に対して住民意見として提案しそれを受けた行政は提出意見を実現に向けた検討や次期総合計画づくりに活かしていく。
- (3) 公募等ではなく無作為抽出での参加の依頼をとおして、行政に関心を持っている住民の新たな発掘にもつなげる。
- (4) 住民協働、町の現在の事業内容等の知識を得てもらい、住民同士での話し合いから、町に望まなければならないこと、住民が協力して進めなければならないこと等の意識を持っていただき住民協働の意識高揚につなげる。

3 実施概要

- (1) 日時 1日目 平成23年10月16日(日) 9時30分～15時45分
2日目 平成23年11月6日(日) 9時30分～12時30分
3日目 平成23年11月20日(日) 9時30分～12時30分
4日目 平成23年12月4日(日) 9時30分～12時15分

- (2) 場所 宇多津町役場 保健センター4階会議室

(3) 討議のテーマ

- 第1日目 快適な町にするには(安全・安心な町、自然環境豊かな町について)
- 第2日目 みんなで、まちづくりするには(コミュニティ育成、住民協働について)
- 第3日目 安心して暮らせる町にするには(町の医療、福祉について)

第4日目 ゆとりと潤いにあふれる町にするには（市街地環境、上下水道、公園等について）

(4) 参加者の募集方法と応募状況

(i) 募集方法

宇多津町在住者のうち、満20歳以上の男女を対象として住民基本台帳から年齢階層別に無作為に抽出された1,500人に募集案内を送付し、応募のあった住民から抽選により30名を選出した。辞退者が1名にて最終的に29名（1日目26名、2日目23名、3日目23名、4日目22名）が参加した。

(ii) 応募状況と抽選結果

募集に対し、応募者総数は71名（案内送付対象者の4.7%）であった。その構成は以下の通りである。

抽選に際しては、参加者の年齢が偏らないように年齢人口比率に応じて抽選を実施した。

宇多津町住民会議2011応募者数の内訳

年代別応募状況		うち男性	うち女性
20～25	5	1	4
26～30	5	3	2
31～35	5	2	3
36～40	6	1	4
41～45	3	2	1
46～50	7	4	3
51～55	3	0	3
56～60	7	1	6
61～65	6	3	3
66～70	10	4	6
71～75	9	5	5
76～80	5	4	1
合計	71	30	41

宇多津町住民健2011参加者抽選結果の内訳

年代別選出状況		うち男性	うち女性
20～25	2	0	2
26～30	3	2	1
31～35	3	2	1
36～40	3	1	2
41～45	3	2	1
46～50	3	2	1
51～55	2	0	2
56～60	2	0	2
61～65	3	2	1
66～70	2	2	0
71～75	2	0	2
76～80	2	2	0
合計	30	15	15

4 会議の運営方法

(1) 会議の運営手法

宇多津町住民会議2011は、ドイツで実施されている住民参加手法で、近年、日本における他自治体においても類似の手法にて実施されている「プランニングスツェレ」に準じた手法にて実施した。

「プランニングスツェレ」の概要は以下の通りである。

プランニングスツェレの特徴

- (1) 解決が必要な、真剣な課題に対して実施する。
- (2) 参加者は住民基本台帳から無作為で抽出する。
- (3) 有償で一定期間の参加 (4 日間が標準)
- (4) 中立的独立機関が実施機関となり、プログラムを決定する。
- (5) ひとつのプランニングスツェレは原則 25 名で構成し、複数開催する。2 名の進行役がつく。
- (6) 専門家、利害関係者から情報提供を受ける。
- (7) 毎回メンバーチェンジしながら、約 5 人の小グループで、参加者のみが討議を繰り返す。
- (8) 「住民答申」という形で報告書を作成し、参加した住民が正式な形で委託者に渡す。

『まちづくりと新しい市民参加—ドイツのプランニングスツェレの手法—』
イマジン出版、篠原明德(2006)

(2) 会議の基本的な手順

- 手順1 自己紹介・係の決定 (進行係・まとめ係・書記係・発表係・タイムキーパー係)
- 手順2 討議テーマに対する情報提供 (テーマに係る町担当部署からの現在の事業等説明)
- 手順3 テーブルサポーターからの説明 (テーマの内容や討議の進め方などを各グループに配置した担当者から簡単に説明)
- 手順4 付箋への記入 (各自でテーマについて、実現するために必要だと思うことを付箋に書き出す)
- 手順5 自由な意見交換 (進行係の方を中心にテーマについて、記入した付箋を作業用紙に貼り出しながら、意見交換を行う)
- 手順6 付箋のグルーピング (進行係を中心に、出された付箋を同じような意見や種類に分ける「グルーピング」を行う)
- 手順7 意見のまとめ・発表用紙に記入 (グループ分けがある程度できたら、3つの企画を考え、具体的に「住民が取り組むこと」及び「行政に協力して欲しいこと」を話し合い、発表用紙に記入する)
- 手順8 発表 (各グループの発表係が、順番に発表する)
- 手順9 投票 (全員にて自分が良いなと思った「企画」に投票する)

(3) 討議内容等

(i) 具体的に討議する内容

テーマ毎に、「テーマを実現するために必要だと思うこと」と「必要なことに対して地域・住民にて取り組めること」「行政にサポートして欲しいこと」について討議した。

討議に際して、アイデア抽出及びそのアイデアの整理・まとめについては、ブレインストーミング法(批判しない・自由奔放・質より量・連想と結合)及びKJ法(多くの意見をグループ化し論理的に整理していく)を活用することにより、グループ毎に3つずつの企画を出していった。

(ii) 発表用紙の作成

各討議テーマの討議結果は、以下の発表用紙に取りまとめた。

グループ	メンバー氏名					メンバー全員の 名前を記入
A						
討議テーマ	快適な町にするには～安全・安心な町、自然豊かな町 にするには～					メンバー全員の 意見を集約して I～IIIの3つの 意見に取りまと めた
I	実現するために必要なこと			投票欄		
	住民・地域が取り組めること					
	行政等にサポートして欲しいこと					
II	実現するために必要なこと			投票欄		
残したい意見						発表・投票の際に、 参加者全員で自ら が支持する意見の 投票欄にシールを 貼った

3つの意見以外にどうしても
残したい意見を記録した

(iii) 発表と投票の方法

各グループの代表者が参加者全員の前で討議結果を発表し、全員で投票を行なった。投票は、一人5票を投じることができることとし、シールを発表用紙に貼る方法で行なった。

(4) 討議のルール

討議にあたって、以下の事項をルールとして提示し、参加者全員で共有した。

- ・批判しない
良い意見が出にくくなるので、他人の意見の批判はしない。
- ・質より量
必ず1人1つ以上の意見を出して、より多くのアイデアを収集する。
- ・自由で柔軟な発想
こんなことを言ったら笑われるかもしれないと思ったアイデアが、実は良いアイデアだったりするので、恥ずかしがらずにどんどん意見を出す。
- ・他の人の意見に便乗
他の人の意見に自分のアイデアを加えて新たな発見にしたり、連想して意見を膨らませたりする。